

# 『平和を考える10日間』

(8月6日～15日)

詳しくは自治文化課

わたしたちにとつて忘れることのできない8月。広島と長崎に人類史上初の原子爆弾が投下され、悲惨な戦争が終わったあの8月から67年の歳月が流れようとしています。市では、過去の悲惨な戦争を振り返り、平和への願いを次の世代に伝えていくことを目的に、昭和57年から、毎年8月6日～15日の期間を「平和を考える10日間」として、平和をテーマにした、さまざまな事業を行ってきました。

今年も、平和への願いを込め、次の事業を行います。



平和講演会「被爆体験を聴く会」(5月7日・8日)

## 「平和を考える10日間」の事業

事業名	とき	ところ	内容
平和講演会「被爆体験を聴く会」	5月7日(月)・8日(火)	加納中学校 桶川西中学校	講師 松本 都美子さん (広島平和記念資料館・語り部) 【事業は終了しました】
平和の折鶴募集	6月18日(月)～7月13日(金)	市内公民館など	平和を祈願した折鶴を集め、広島・長崎両市に送付します 【募集は終了しました】
平和を考える写真・資料の展示	8月3日(金)～15日(水)	駅構内・見る観るコーナー	戦災や平和に関する資料と横断幕を掲出します。
平和のキャンペーン	8月6日(月)午前7時15分～7時50分	駅東西口	街頭キャンペーンを実施し、本事業の趣旨「恒久平和」を広く市民にアピールします。
サイレン吹鳴	①8月6日(月)午前8時15分 ②8月9日(木)午前11時2分 ③8月15日(水)正午	市内	①広島原爆投下時刻 ②長崎原爆投下時刻 ③終戦記念日の3回に分けてサイレンを吹鳴します。
平和図書コーナー	8月7日(火)～14日(水) ※但し13日(月)は休館日	市立図書館	図書館所蔵の平和関係図書の展示と、貸出コーナーを設置します
戦争体験記頒布	随時	自治文化課	昭和62年から平成18年の間に市民の皆様から寄せられた体験記を頒布しています。 ①いのちの伝言(500円) ②続いのちの伝言(200円)

## 戦争体験記

### 「わたしの戦争体験記。被爆体験を聴く会感想」

市では、「平和を考える10日間」の事業の一環として、過去の悲惨な戦争を振り返り、平和への願いを次の世代に伝えていくことを目的に、昭和62年から「私の戦争体験記」として戦地での体験や戦時中の生活の体験を、市民の皆さんから募集して毎年広報へ掲載してきました。今年度も8月15日の終戦記念日にあわせて戦争体験記のご応募をいただきましたので、ご紹介いたします。また5月に市内中学校にて実施した「被爆体験を聴く会」参加生徒の感想文もあわせてご紹介いたします。

### 私の戦争履歴書



岩田 博さん  
(川田谷在住)

昭和二十年一月当時、私は桶川で研磨工として働いておりました。ちょうどそのころ勤めていた会社が征

空義勇工作隊という勤労組織に加入し、同僚十二名とともに東京府武蔵野町にあった中島飛行機武蔵野製作所に出張を命じられ、そこで勤労奉仕することになりました。この工場はゼロ戦をはじめ陸海空軍の戦闘機エンジンを生産する国内最大級の工場という事で、広い地下工場や近くには高射砲が配置されているなど驚くことが多くありました。

そんなある日工場が空襲に遭いました。地下道に避難したにも関わらず爆風で壁にたたきつけられ、全く生きた心地がせず、これは今でも忘れられない最大の恐怖体験となりました。この空襲で私たちは職場を失い、用賀の別の工場で勤めることになりました。

四月には、ついに私にも赤紙が届き、これで私も国に命を捧げる時が来た、と痛感しました。会社と部落の神社で壮行会を済ませ、千葉の戦車第三十六連隊に入隊しました。初めて部隊で食べた食事が赤飯でめでたいと思ったものの、後にコウリヤン飯とわかりこれはこれで美味しかったと覚えています。七月には兄弟が面会に訪れ、そら豆の塩飴入り小麦饅頭と炒り大豆を差し入れてもらい、厳しい軍隊生活の中味わたたそれらが非常に美味しく、往時を偲び今でも感謝しています。そして八月

十五日に全員集合で天皇陛下の終戦の言葉を聞いたときは、ただ感涙絶句するのみでした。今振り返って見ると戦時中、食糧事情は厳しく、会社で出されたうどん、人参、大根などの簡単な雑炊でも喜んで頂いた事を覚えています。今でも世界各地で紛争は絶えませんが、私は平和な日本で幸せに暮らせることに感謝し、二十一世紀は世界が平穏でありますよう願っています。

### 戦争遺児の思い



岩田 としさん  
(川田谷在住)

私の父は昭和十七年に一月十七日に召集を受け、横須賀海兵団に入隊しました。残された祖父母が農作業、しかも機械化されてない手作業で苦勞した事を思うと、頭が下がります。農繁期になると学徒動員で来た学生さんが住み込みで慣れない作業に精を出してくれました。しかし収穫した米麦はほとんど供出してしまい、食事にも事欠く有様でした。

学校では学童の強制疎開で東京から十二名の友人が入り教室は大分賑やかになりました。教科書は二名で一冊、ノートは無駄なく書きました。でも私達は「欲しがりません、勝つまでは」を合言葉にし、子供ながら「貧しさ」「我慢の日」を続けていきました。戦況が日に日に悪化する中、昭和十八年一月二日、ニューギニア島方面にて父が戦死したとの公報が来たのです。私はその時茫然となり床に泣き伏したのを覚えています。二度と戦争は繰り返さないことを念じて止みません。「人命は地球より重い」という言葉がありますが、まさに人生の道標と思っております。

### 母娘の戦争



近藤 文子さん  
(泉在住)

長兄が海軍に、次兄は中国に出征と、二人の息子を戦地へと送った母は2人が無事帰るまではお茶を断ち、好物の梨は生涯食べないと八幡様に上げたことでした。長兄は戦後

間もなく帰り、次兄は翌年の大雪の日に帰りました。泣きながらお茶を飲んでいた母を私は絵の中の1枚のように覚えていました。戦後の食糧難は大変でした。母の着物を持って農家巡りをし、カボチャなどと交換してもらいました。運よくお米を貰えたある日、母と大喜びでお米を貰えたらお巡りさんに捕まると悲しそうで私が大泣きに泣き、やっとならぬ夕食にお米を食べることが出来た日もありました。少しあった貴重な砂糖をご飯にかけて食べ、その香りと美味しさを楽しんでおりましたら、母に「贅沢をするな」と叱られました。でもあの味は忘れられません。

そんな戦時中、私の人生を決定付ける出会いがありました。東京より疎開してきた初恋の人、主人との出会いです。私が小学生、主人が中学生のとき主人は帰京しましたが時が流れて再度めぐり合い、三人の息子が生まれて四十八年共に生きることが出来ました。

幼い頃からの出会いを数えると六十年近い年月が二人には流れました。二人でよく昔の苦勞話をしたものです。共有できる想いはあっても戦争はつらい日々でした。そして語れる人も逝き私も終戦です。

# 「長寿を祝して」9月敬老事業のご案内

問合せ☎高齢介護課

9月17日の敬老の日を迎えるにあたり、長年にわたり社会に貢献され、また桶川市を暖かく見守り、育てていただいた皆様に心から感謝し、お祝い申し上げます。

わが国の平均寿命も延び、国際的にも長寿国の一員となっています。これもひとえに皆様方の日ごろの健康管理へのご努力と、医療の進歩が要因に挙げられます。

そうした高齢者の方お一人おひとりが、これまでの豊富な知識と経験を生かし、健康で充実した生活が送れますよう、また生涯にわたって生きがいを持ち、安心して暮らすことができますよう、ご祈念申し上げます。9月の敬老事業をご案内します。(※満年齢は、平成24年度内に迎える年齢となります。)

## 市内循環バス 「べにばなGO」の無料乗車

**対象者**▶75歳以上の方  
**利用期間**  
9月1日(土)~30日(日)  
1か月間  
**利用方法**  
8月下旬に郵送される「バス無料乗車券(はがき)」を提示してください。

## 敬老祝金の贈呈

**【対象者の年齢と支給金額】**  
満80歳、88歳、90歳、99歳および満101歳以上▶10,000円  
満100歳▶100,000円  
**贈呈方法**  
地域の民生委員を通じて贈呈  
※満100歳の方は、誕生月の贈呈となります。

## 地域等敬老事業 助成金

自治会や地域などが行う敬老事業に対して、その事業費の助成を行います。  
なお、自治会に所属していないマンションなどにお住まいの方は、直接ご相談ください。

## けやき文化財団主催

◎祝・敬老「島倉千代子 歌謡ショー」  
と き▶9月9日(日)  
午前の部(11時開場)・午後の部(2時30分開場)  
と ころ▶市民ホール  
問 合 せ▶市民ホール☎789-1113  
(詳しくは、20ページの桶川市民ホールの情報をご確認ください。)

◎「べに花ふるさと館」の食事割引  
内 容▶うどん、そばを75歳以上の方は半額、88歳以上の方は無料  
と き▶9月1日(土)~30日(日)午後1時~8時  
(日曜日は利用できません。)  
月曜日は休館  
※17日(月・祝)は開館し、翌日は休館となります。)  
利用方法▶食事券(はがき)をご持参ください。  
(期間中1回限定・本人のみ有効)  
問 合 せ▶べに花ふるさと館☎729-1611

## 老人福祉センター

◎カラオケ大会  
と き▶9月1日(土)  
午前10時~午後3時  
と ころ▶老人福祉センター  
定 員▶60人(先着順)  
対象者▶60歳以上(1曲限定)  
申込み▶8月7日(火)から、歌う曲名を添えて、直接、老人福祉センターに申込みください。

◎ビンゴ大会  
と き▶9月17日(月・祝)  
午前11時から  
◎季節のお楽しみ風呂  
と き▶9月20日(木)・21日(金)  
午前10時~午後3時30分  
問 合 せ▶老人福祉センター  
☎728-1122

## 私の徴兵体験



和久津 文勇さん  
(下日出谷在住)

当時男子は二十歳になると、徴兵検査を義務付けられており、その例に漏れず私も検査に行き、甲種合格となりました。甲種合格こそ男の証、戦争に参加できると喜んだものです。日中戦争勃発から六年が経過し、戦死者が増え、兵隊が不足する事態になりました。私も現役兵として、昭和十九年四月十日近衛工兵連隊への入隊が決まり、出征の日を楽しみにしておりました。出征の日には多くの友人、知人、親戚の方々五十名程と杯を交わしましたが、皆と合えるのは今日が最後かもしれない、もう生まれた家へ帰ることはないと思うと胸が張り裂けそうでした。見送りの際には友人達が軍歌を歌って駅まで送ってくれました。入隊後は衛生兵に配属され、我孫子にて米軍上陸を想定し準備をしておりました。班長から「この隊は宮城を護衛する名誉ある任務を仰せつ

に」との訓示もあり、奮い立ったものですが、工兵隊の仕事は、毎日の演習や色々なことで大変でした。ある日のこと、初年兵に集まれ、と命令が出たので何かと思い整列すると、中隊長から訓示があり、「今から呼ばれた者は五歩前へ出なさい」と約三十名の名前が呼ばれました。その中に私の名前はなく、下された命令は南洋の戦地への異動でした。

## 被爆体験を 聴く会感想



清野 史織さん  
(桶川西中学校1年)

昭和18年、私たちにとって約67年前、戦時中の生活は聴いても苦しい生活だと思えます。食べ物配給で白いお米も食べられない毎日なんて今の生活からは考えられません。着る物も衣料切符が無いと買えない不自由な生活、サイレンのならない日はなかったという話から毎日が不安と恐怖でいっぱいだったと思えます。

その後戦況は悪化し、八月十五日、部隊長から全員兵舎前に集合し、天皇陛下のお言葉を聞くようにとの命令がありました。そして戦争が終わったことを知り、安堵しました。近衛兵：天皇直属の兵。皇居の警備などを行った  
工兵：戦場における設備の運用を担当  
宮城：現在の皇居



安藤 有理奈さん  
(加納中学校3年)

8月6日の原爆が投下されたときを考えると、ひどいものだと思います。太陽が落ちてきたと思わせるほどのオレンジの光、私には想像できません。避難した山で見た広島的情景は私の想像以上のものでしょう。松本さんは淡々と話していましたが、痛みを忘れるほど辛く、悲しい出来事なのではないでしょうか。友人を失い、家族の骨も見つからないなんて、私なら苦しみ、なぜこんなことになったのか不思議に思うでしょう。それだけではなく治療も満足に受けられず、病気に苦しみ、動物のように扱われ、仕事にも就けないほどの差別を受けるのに、大人は戦争をやめただけで、何の責任も取ってくれない。平和が当たり前に、一人ひとりが問題を起こさなければ人の心にも体にも傷はつかなかった。私はこう思います。命の尊さなど、大切なものを

私は、松本さんの被爆体験を聴いて、戦争はとてむなしなものだなと思いました。きっと、話をしてくれた松本さんは、爆弾が落ちてきてからの悲しい思い出を振り返って、つらかったと思います。でも、それでも話をしてくださった松本さんに感謝をすべきだと思いました。まだ幼く、心が不安定な時期に爆弾を落とされ、大切な友達や家族を失いつらかったと思います。私だけではありません。泣き崩れ生きる気力を失うと思います。それでも精一杯生き続けました。松本さんは強い人だと思いました。そして、自分は死んでしまった人の命をもらい、生きさせてもらっているという考えには、とても感動しました。戦争は、心にも体にも癒えない傷ができてしまうと思います。なので、戦争がなくなり、平和になればいいと思いました。

松本さんの講演から学びました。